

2020 年度 保健衛生学部 IR 報告書

2019 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価)



藤田医科大学 IR推進センター
医療科学部・保健衛生学部 IR分室

2020 年 12 月 28 日

藤田医科大学 IR 推進センター
医療科学部・保健衛生学部 IR 分室

2020 年度 保健衛生学部 IR 報告書

2019 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価)

2020 年度 保健衛生学部 IR 報告書

「2019 年度 卒業生を対象とした ディプロマ・ポリシー到達度調査（就職先施設管理者による評価）」について

本学の教育目標を達成するため、教育および学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R（Institutional Research）推進センターが設置されています。今回、下部組織の医療科学部・保健衛生学部 I R 分室では、2019 年度の保健衛生学部の卒業生を対象とした保健衛生学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価アンケートを行いましたので、その集計・分析結果について報告いたします。

2020 年 12 月 28 日

2020 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医療科学部・保健衛生学部 I R 分室
鈴木康司、山田晃司、石川浩章、南 一幸、小林正尚、日比谷 信、武藤晃一、
世古留美、大塚 圭、鈴木めぐみ、井上知重、島向健太

目 次

1. 分析結果の概要	1
2. ディプロマ・ポリシーについて	2
2-1) 学部ディプロマ・ポリシー	2
2-2) 学科ディプロマ・ポリシー	3
3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度	5
3-1) アンケート調査方法	5
3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析	7
3-2-1) 学部全体としての分析	13
3-2-2) 学科間の比較	13
3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析	16
3-3-1) 看護学科	16
3-3-2) リハビリテーション学科・理学療法専攻	18
3-3-3) リハビリテーション学科・作業療法専攻	20
4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度	22
4-1) アンケート調査方法	22
4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析	22
4-2-1) 看護学科	22
4-2-2) リハビリテーション学科・理学療法専攻	26
4-2-3) リハビリテーション学科・作業療法専攻	30
5. 参考資料	33

1. 分析結果の概要

本学の教育のさらなる質の向上をめざし、2019 年度保健衛生学部卒業生を採用いただいた医療施設の管理担当者に対して、本学科卒業生の保健衛生学部ディプロマ・ポリシーおよび各所属の学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度を評価していただくアンケート調査を実施し、集計・集計・分析を行った。

113 施設にアンケート調査を実施し、83 施設から回答が得られた（回収率：73.5%）。保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先管理担当者の評価は、学部全体では、8 項目の評価平均値はほぼ等しく、設問間で大きな相違は認めなかった。特に「専門知識」、「コミュ力」に関する項目が「最低水準は修得できている」以上であると高く評価された施設が多かったが、「論理思考」に関する項目の評価は他の項目より低かった。しかし、すべての設問で「最低水準は修得できた」より高く評価された施設がほとんどであった。また、学生の自己評価と比較すると、就職先管理担当者の評価は若干低い傾向にはあるが、大きな相違は認めなかった。学科専攻間で比較すると、理学療法専攻が他より「専門知識」、「専門技能」において若干評価が高い傾向であった。

各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、すべての学科で各ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、「最低水準は修得できた」以上と回答した施設がほとんどであり、「ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下と回答した施設はわずかであった。上述の傾向は、これまでの卒業生とほぼ同様であった。

以上の結果より、すべての学科において、学部および学科のディプロマ・ポリシーの達成度は十分に高く、保健衛生学部における教育は持続的に質を高く保てている状況であると判断できた。しかし、学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価において、他の項目に比べて評価が低い項目がある。今後は自ら考え判断する力やグローバル化に関する要素をさらに強化するとともに、就職先のニーズに応えられるような教育内容の改善について検討を継続する必要がある。

2. ディプロマ・ポリシーについて

ディプロマ・ポリシー (Diploma Policy) とは、高等教育機関における卒業認定・学位授与に関する方針である。

藤田医科大学では学部レベルと学科レベルにて、学生が卒業する時に最低限身につけていべき知識・理解・思考・判断・興味・関心・態度・技能・表現について具体的にまとめ、これをディプロマ・ポリシーとして設定し、公表している。ディプロマ・ポリシーは、本学の教育に関する質保証に資するために策定される。

2-1) 学部ディプロマ・ポリシー

保健衛生学部では、学部レベルのディプロマ・ポリシーを策定している。2019 年度卒業生に対する学部ディプロマ・ポリシーについて表 2-1 に示す。

表 2-1. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー

保健衛生学部は、看護学、理学療法学、作業療法学の専門的教育と研究の過程を経て、以下のような能力と素養を身につけた学生に対して学士の称号を与えます。

(知識・理解)

- 1) 医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得している。
- 2) 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけている。

(思考・判断)

- 3) 対人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行え、必要な行動を示すことができる。
- 4) 国際的視野に立ち、疑問を解決する行動をとることができる。

(興味・関心)

- 5) 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に適応し、生涯を通して自らを成長させることができる。

(態度)

- 6) 対人の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができる。

(技能・表現)

- 7) 専門的な技能を、対人に適確かつ安全に提供することができる。
 - 8) 患者や家族とコミュニケーションをとり、保健・医療・福祉チームのメンバーと良好な関係を築き、チームの一員として役割を果たすことができる。
-

2-2) 学科ディプロマ・ポリシー

保健衛生学部各学科においてもディプロマ・ポリシーを設定し、教育の質保証に努めている。保健衛生学部の看護学科のディプロマ・ポリシーを表2-2、リハビリテーション学科（理学療法専攻と作業療法専攻の共通）を表2-3に示す。

表2-2. 看護学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学保健衛生学部のディプロマ・ポリシーに基づき、看護学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験に合格した学生に「学士（看護学）」の学位を授与します。

卒業試験は下記の能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、看護学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 看護職の基盤となる知識と技能を有している。
- 2) 看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できる。
- 3) 人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある言動をとることができる。
- 4) 専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学習を生涯継続していく姿勢を身につけている。
- 5) 多様な価値観があることを受入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができる。
- 6) 保健医療福祉のチームに関わる人たちと協調し、リーダーシップやフォロワーシップを発揮することができる。
- 7) 地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができる。
- 8) 国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心をもち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができる。

表2-3. リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学保健衛生学部のディプロマ・ポリシーに基づき、リハビリテーション学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験に合格した学生に理学療法専攻では「学士（理学療法学）」、作業療法専攻では「学士（作業療法学）」の学位を授与します。

卒業試験は下記の能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、リハビリテーション学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 医療人として、専門分野の学修内容について知識を修得し、周辺科学領域の専門家と協調しリハビリテーションを学問として深化させることができる能力を有している。
- 2) 患者心理を理解することができ、多様な価値観の存在を認識共感し、また、患者の尊厳を重んじ、倫理的配慮に基づいた責任説明を果たす個別対応ができる専門職業人としての幅広い教養および基本的態度を身につけている。
- 3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるように理学療法および作業療法の専門領域において、必要な行動を示す

ことができる。

- 4) 最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させることができる。
 - 5) 患者および地域住民の健康に関連する生活上の諸課題を解決するため治療、予防、健康維持増進など健康障害からの回復に寄与するため、医療人として科学的根拠に基づき責任をもった行動をとることができる。
 - 6) 専門的な技能を身につけ、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用することができる。
 - 7) 組織運営に必要な知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解でき、チーム医療としてメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができる。
-

3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度

3-1) アンケート調査方法

保健衛生学部の2019年度卒業生を対象として、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した（依頼文は「5. 参考資料」に掲載）。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入する方式とし、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの各項目（計8項目）を設問として、それに対する就業者（2019年度本学部卒業生）全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。なお、看護学科卒業生で本学第1教育病院へ就職したもののに対する評価については、施設単位でなく病棟単位の管理者によるアンケート調査を実施した。

アンケート調査の実施方法（時期、対象等）について表3-1に示す。

アンケート調査項目（保健衛生学部ディプロマ・ポリシー）を表3-2、達成度の6段階の評定尺度を表3-3に示す。

表3-1. 就職先施設管理者へのアンケート調査の実施方法

看護学科	時期：8月初旬～9月末 手順：郵送（返信用封筒にて回収）または直接依頼 調査施設数：17施設（54部） 郵送により調査依頼する施設：14施設 直接依頼する施設：第1教育病院（33部）、第2教育病院（1部）、 第4教育病院（6部）※配属された病棟単位で直接依頼
リハビリテーション学科	理学療法専攻 時期：8月初旬～9月末 手順：郵送（返信用封筒にて回収）または直接依頼 調査施設数：35施設 郵送により調査依頼する施設：31施設 直接依頼する施設：第1教育病院（1部）、第2教育病院（1部）、 第3教育病院（1部）、第4教育病院（1部）
	作業療法専攻 時期：8月初旬～9月末 手順：郵送（返信用封筒にて回収）または直接依頼 調査施設数：24施設 郵送により調査依頼する施設：20施設 直接依頼する施設：第1教育病院（1部）、第2教育病院（1部）、 第3教育病院（1部）、第4教育病院（1部）

表 3－2. アンケート調査の設問項目：保健衛生学部ディプロマ・ポリシー

DP1 (専門知識)	医療人としての専門分野の学修内容について知識が修得できましたか。
DP2 (倫理教養)	人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養が身につきましたか。
DP3 (科学行動)	対人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行え、必要な行動を示すことができるようになりましたか。
DP4 (解決力)	国際的視野に立ち、疑問を解決する行動をとることができるようになりましたか。
DP5 (生涯学習)	科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に適応し、生涯を通して自らを成長させることができるようになりましたか。
DP6 (責任感)	対人の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができるようになりましたか。
DP7 (専門技能)	専門的な技能を、対人に適確かつ安全に提供することができるようになりましたか。
DP8 (コミュカ)	患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになりましたか。

表 3－3. アンケート調査に用いた到達度の評定尺度（6段階）

6：完全に修得できた
5：概ね修得できた
4：最低水準は修得できた
3：ある程度修得したが、最低水準には届かない
2：十分に修得できていない
1：全く修得できていない

3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析

2019 年度保健衛生学部卒業生を対象とした保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表 3-4 に示す。

表 3-4. アンケート調査票の回収状況（学部ディプロマ・ポリシー）

学科	回収率	回収率 (昨年度)
看護学科	73.5% (39/54 部)	67.8%
リハビリテーション学科		
理学療法専攻	74.3% (26/35 施設)	76.7%
作業療法専攻	75.0% (18/24 施設)	89.7%
計	73.5% (83/113 施設・部)	75.4%

アンケート調査の回答の度数分布を表 3-5 に示す。

学部全体としての各設問に対する評定尺度毎の回答結果のヒストグラムを図 3-1 に示す。

各設問に対する回答の割合を図 3-2 に示す。

表3-5. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価アンケート結果 度数分布

設問1 (専門知識)	学部	看護	リ理	リ作
6	1	0	1	0
5	24	8	11	5
4	42	23	11	8
3	12	6	3	3
2	4	2	0	2
1	0	0	0	0
n	83	39	26	18

設問2 (倫理教養)	学部	看護	リ理	リ作
6	2	0	2	0
5	26	11	7	8
4	36	17	14	5
3	12	9	2	1
2	6	2	1	3
1	1	0	0	1
n	83	39	26	18

設問3 (科学行動)	学部	看護	リ理	リ作
6	1	0	0	1
5	19	6	7	6
4	39	23	11	5
3	18	7	8	3
2	5	3	0	2
1	1	0	0	1
n	83	39	26	18

設問4 (論理思考)	学部	看護	リ理	リ作
6	1	0	0	1
5	7	3	3	1
4	31	15	8	8
3	24	12	10	2
2	16	8	4	4
1	4	1	1	2
n	83	39	26	18

設問5 (生涯学習)	学部	看護	リ理	リ作
6	2	1	1	0
5	18	7	7	4
4	34	17	12	5
3	24	11	6	7
2	4	3	0	1
1	1	0	0	1
n	83	39	26	18

設問6 (責任感)	学部	看護	リ理	リ作
6	6	4	2	0
5	27	12	8	7
4	32	12	13	7
3	15	10	3	2
2	2	1	0	1
1	1	0	0	1
n	83	39	26	18

設問7 (専門技能)	学部	看護	リ理	リ作
6	3	1	1	1
5	27	12	11	4
4	34	16	11	7
3	14	7	3	4
2	5	3	0	2
1	0	0	0	0
n	83	39	26	18

設問8 (コミュカ)	学部	看護	リ理	リ作
6	2	2	0	0
5	35	14	12	9
4	32	14	12	6
3	7	5	1	1
2	6	4	1	1
1	1	0	0	1
n	83	39	26	18

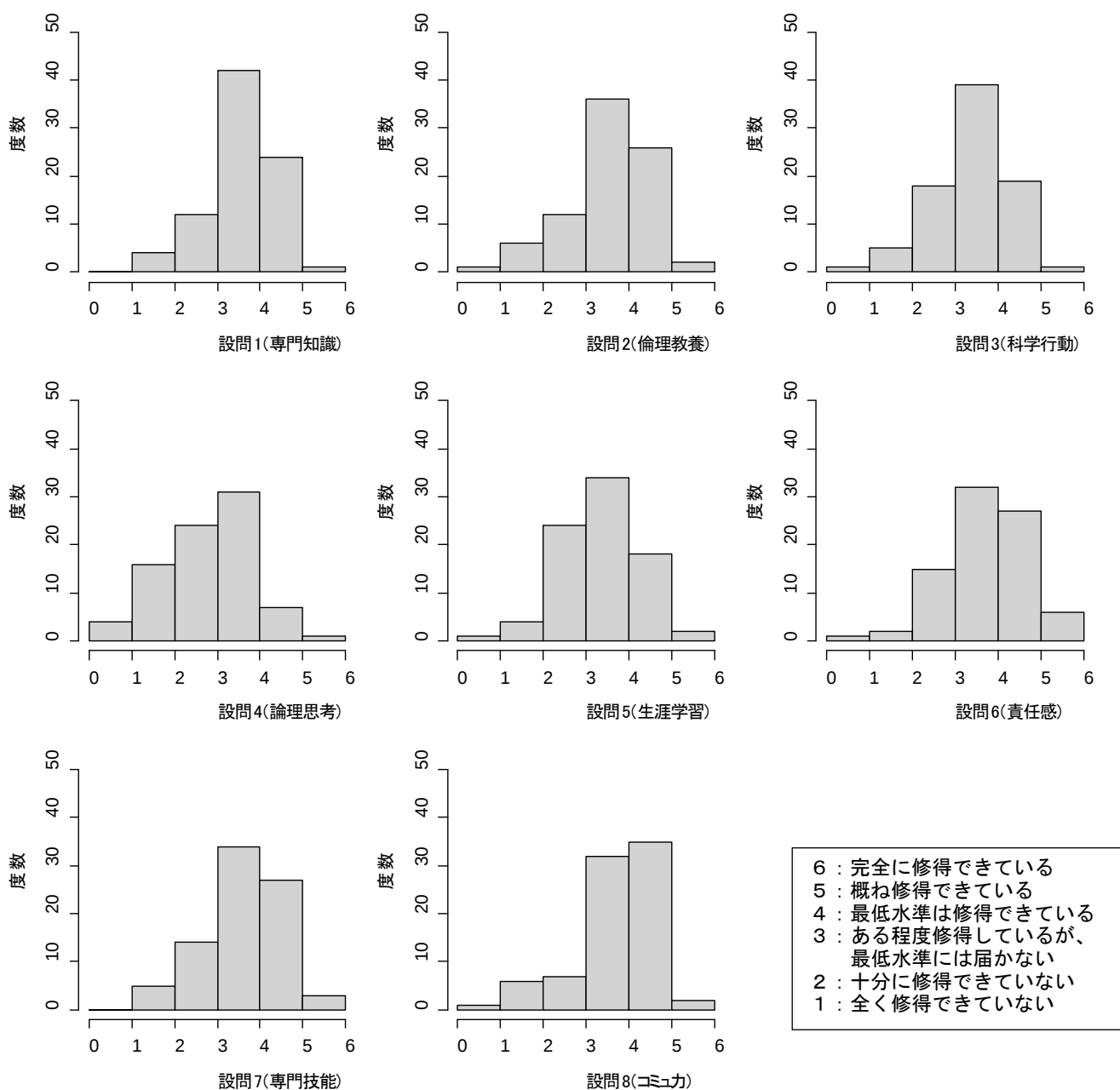


図3-1. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学部全体の回答分布

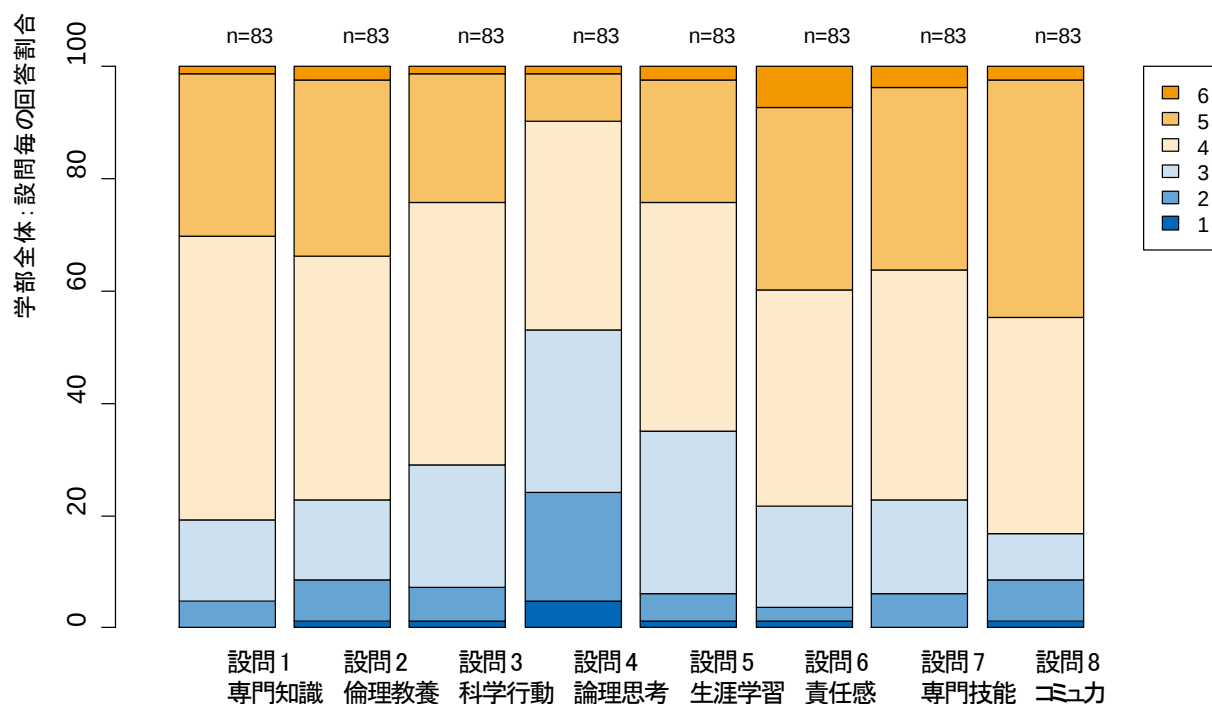


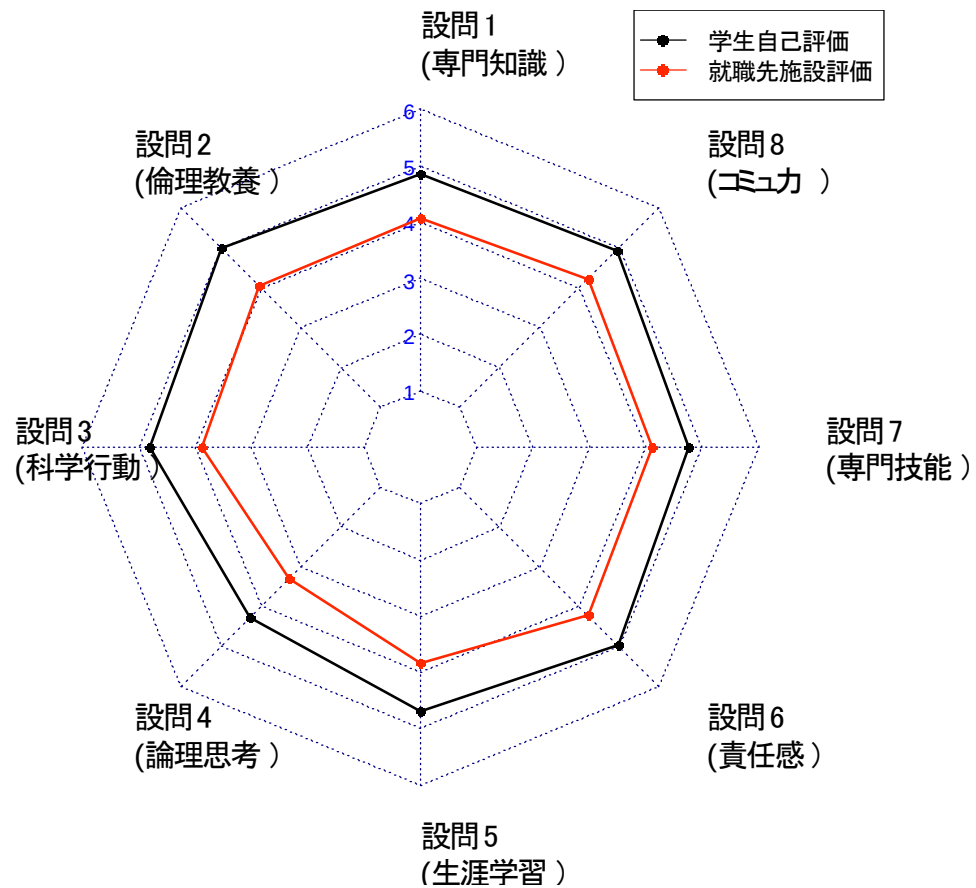
図3-2. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 設問毎の回答割合

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行う。回答結果について、学部全体および学科ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表3-6に示す。

設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値をレーダーチャートとして図3-3に示す。設問1～設問8は、医療科学部・保健衛生学部 IR 分室より2020年6月2日に報告された「2020年度保健衛生学部 IR 報告書—2019年度卒業生を対象としたディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）—」（以下、学生自己評価調査）における学生の自己評価による学部ディプロマ・ポリシーのアンケート調査の設問と同様である。そこで、学生自己評価調査の「表3-4. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量」より得た各設問の学部全体の平均値を合わせて図3-3に示す。

表 3－6. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 基本統計量

設問1 (専門知識)					設問2 (倫理教養)				
学部	看護	リ理	リ作		学部	看護	リ理	リ作	
平均値	4.07	3.95	4.38	3.89	平均値	4.04	3.95	4.27	3.89
標準偏差	0.82	0.75	0.74	0.94	標準偏差	0.97	0.85	0.86	1.29
中央値	4	4	4	4	中央値	4	4	4	4
最大値	6	5	6	5	最大値	6	5	6	5
最小値	2	2	3	2	最小値	1	2	2	1
n	83	39	26	18	n	83	39	26	18
設問3 (科学行動)					設問4 (論理思考)				
学部	看護	リ理	リ作		学部	看護	リ理	リ作	
平均値	3.88	3.82	3.96	3.89	平均値	3.29	3.28	3.31	3.28
標準偏差	0.91	0.78	0.76	1.29	標準偏差	1.06	0.96	0.99	1.33
中央値	4	4	4	4	中央値	3	3	3	4
最大値	6	5	5	6	最大値	6	5	5	6
最小値	1	2	3	1	最小値	1	1	1	1
n	83	39	26	18	n	83	39	26	18
設問5 (生涯学習)					設問6 (責任感)				
学部	看護	リ理	リ作		学部	看護	リ理	リ作	
平均値	3.84	3.79	4.12	3.56	平均値	4.20	4.21	4.35	4.00
標準偏差	0.94	0.91	0.80	1.07	標準偏差	0.98	1.02	0.78	1.11
中央値	4	4	4	3.5	中央値	4	4	4	4
最大値	6	6	6	5	最大値	6	6	6	5
最小値	1	2	3	1	最小値	1	2	3	1
n	83	39	26	18	n	83	39	26	18
設問7 (専門技能)					設問8 (コミュ力)				
学部	看護	リ理	リ作		学部	看護	リ理	リ作	
平均値	4.11	4.03	4.38	3.89	平均値	4.20	4.13	4.35	4.17
標準偏差	0.93	0.95	0.74	1.05	標準偏差	0.98	1.04	0.73	1.12
中央値	4	4	4	4	中央値	4	4	4	5
最大値	6	6	6	6	最大値	6	6	5	5
最小値	2	2	3	2	最小値	1	2	2	1
n	83	39	26	18	n	83	39	26	18



保健衛生学部	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8
就職先施設評価 a	4.07	4.04	3.88	3.29	3.84	4.20	4.11	4.20
学生自己評価 b	4.86	5.00	4.81	4.29	4.69	4.96	4.77	4.93
差 a-b	-0.79	-0.97	-0.93	-1.00	-0.84	-0.76	-0.66	-0.73

図3-3. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 評定値の平均値

3-2-1) 学部全体としての分析

保健衛生学部の 2019 年度卒業生を対象とした、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価の平均値は 8 項目で大きな差はなく(平均値 3.95 ± 0.92)、最も評価が高かったのは「設問 6：対人の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができるようになりましたか。(責任感)」の 4.20 ± 0.98 と「設問 8：患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになりましたか。(コミュ力)」の 4.20 ± 0.98 であり、最も評価が低かった項目は「設問 4：国際的視野に立ち、疑問を解決する行動をとることができるようになりましたか。(解決力)」の 3.29 ± 0.98 であった(表 3-6)。また各設問の中央値は、「設問 4：国際的視野に立ち、疑問を解決する行動をとることができるようになりましたか。(解決力)」が「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」であり、他の設問の中央値は「4：最低水準は修得できた」であった。

「4：最低水準は修得できた」以上という評価が多かったのは「設問 1：医療人としての専門分野の学修内容について知識が修得できましたか。(専門知識)」で 80.7% (67/83 件) と「設問 8：患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになりましたか。(コミュ力)」で 83.1% (69/83 件) であった(図 3-2 および表 3-6)。一方、「設問 4 (論理思考)」は、他の設問と比べ「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」より低い評価が 53.0% (44/83 件) と他の設問に比べ多かった。

「4：最低水準は修得できた」以上という評価が多かったのは「設問 1：医療人としての専門分野の学修内容について知識が修得できましたか。(専門知識)」で 80.7% (67/83 件) と「設問 8：患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになりましたか。(コミュ力)」で 83.1% (69/83 件) であった(図 3-2 および表 3-6)。一方、「設問 4 (論理思考)」は、他の設問と比べ「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」より低い評価が 53.0% (44/83 件) と他の設問に比べ多かった。

学生自己評価調査と今回の就職先施設管理者による評価結果を比較すると、設問 1～8 の全てにおいて就職先管理者による評価は学生の自己評価に比べ、0.66～1.00 ポイント低かったことから、学生自己評価の方が就職先管理者による評価に比べると約 0.8 ポイント高く評価している(図 3-3)。社会のニーズに対応した人材育成を目指し、これらの評価結果を踏まえて、今後の教育改善や学生指導を実施していくことが重要である。

3-2-2) 学科間の比較

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの 8 項目の設問について、回答された評定値の学科毎の分布を箱ひげ図で比較したグラフを図 3-4 に示す。設問ごとに回答された評定値の学科毎の割合を比較するグラフを図 3-5 に示す。

設問 1～8 において、各学科専攻の評価値の中央値は、設問 4 (論理思考)を除き 4 以上であった(表 3-6)。作業療法専攻においては設問 8 (コミュ力)で評価値の中央値 5 となり他の学科専攻より高い結果を得た。設問 4 (論理思考)においても作業療法専攻で評価値の中央値 4 に対して他の学科専攻の評価値の中央値 3 と高い結果を得た。一方、設問 1～8 のすべての設問において理学療法専攻の平均値が最も高い値を示した。

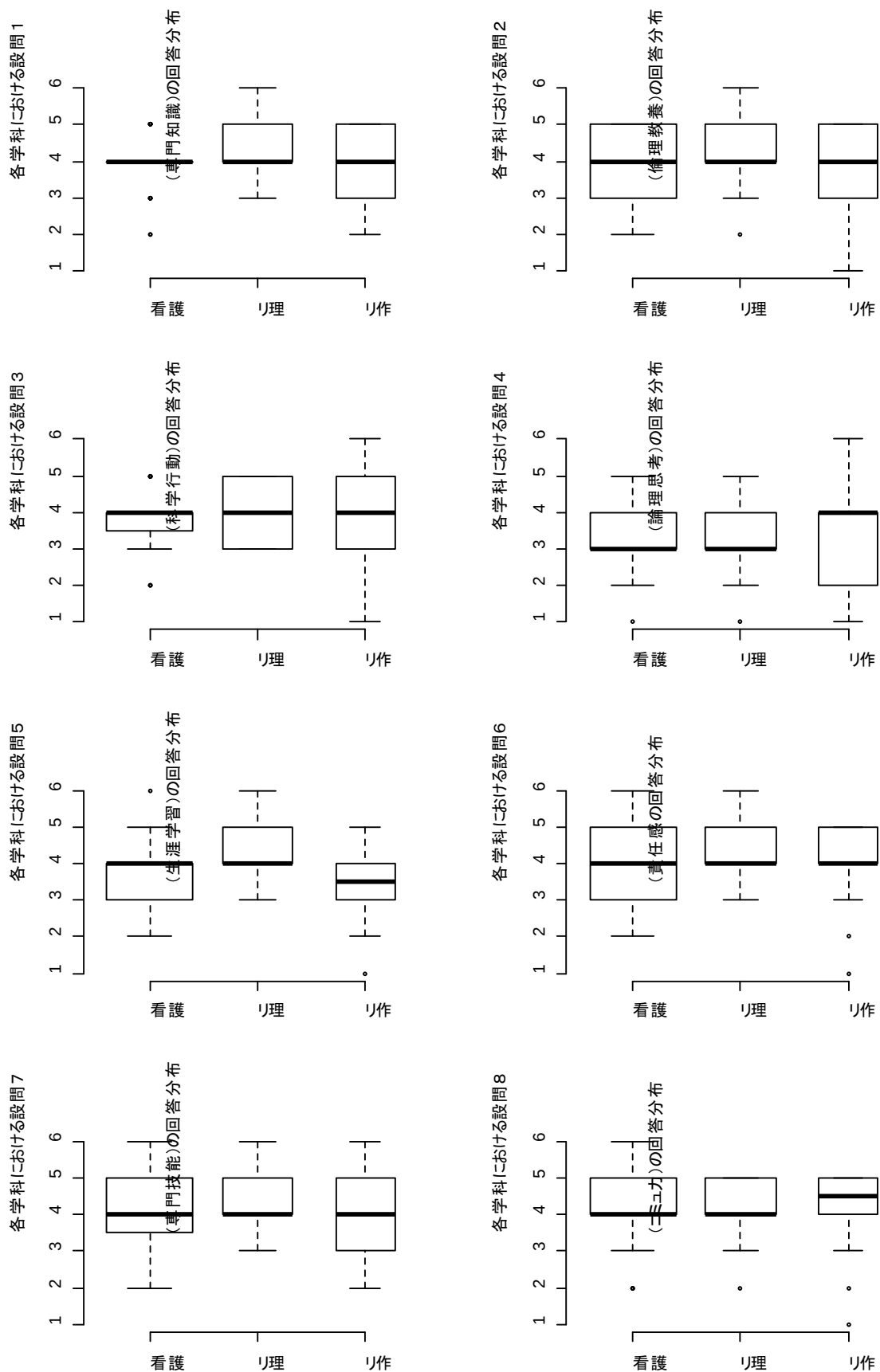


図 3-4. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答分布の比較

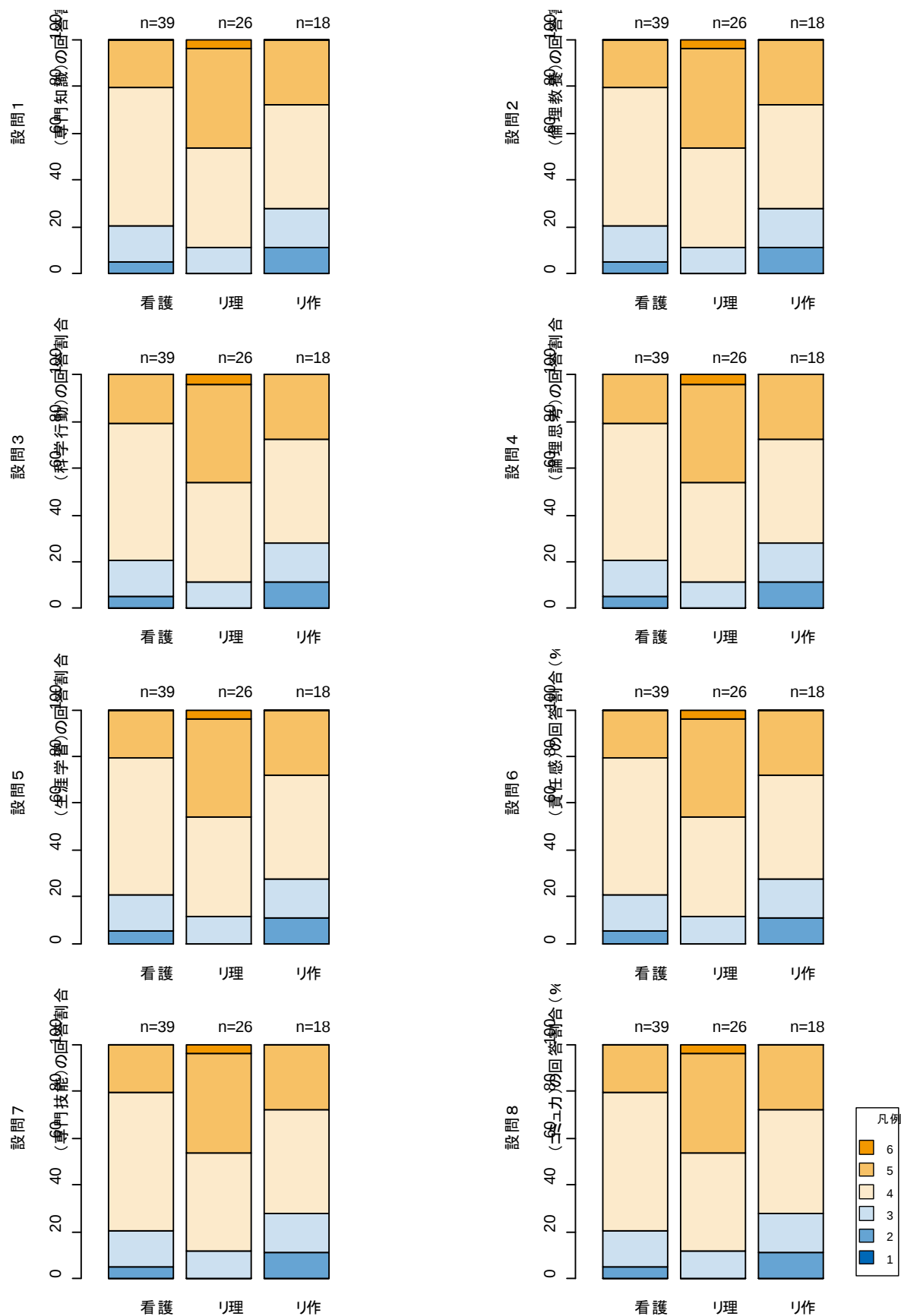


図3-5. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答割合(%)の比較

3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科ごとに調査結果の概要と到達度の分析を示す。

3-3-1) 看護学科

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-6に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値と看護学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における看護学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-7に示す。

設問1～設問8の全てにおいて、学科の評定値の平均は学部全体より低い値となった。看護学科は他学科と比較し、就職先施設評価と自己評価値の差が大きい傾向を示した。

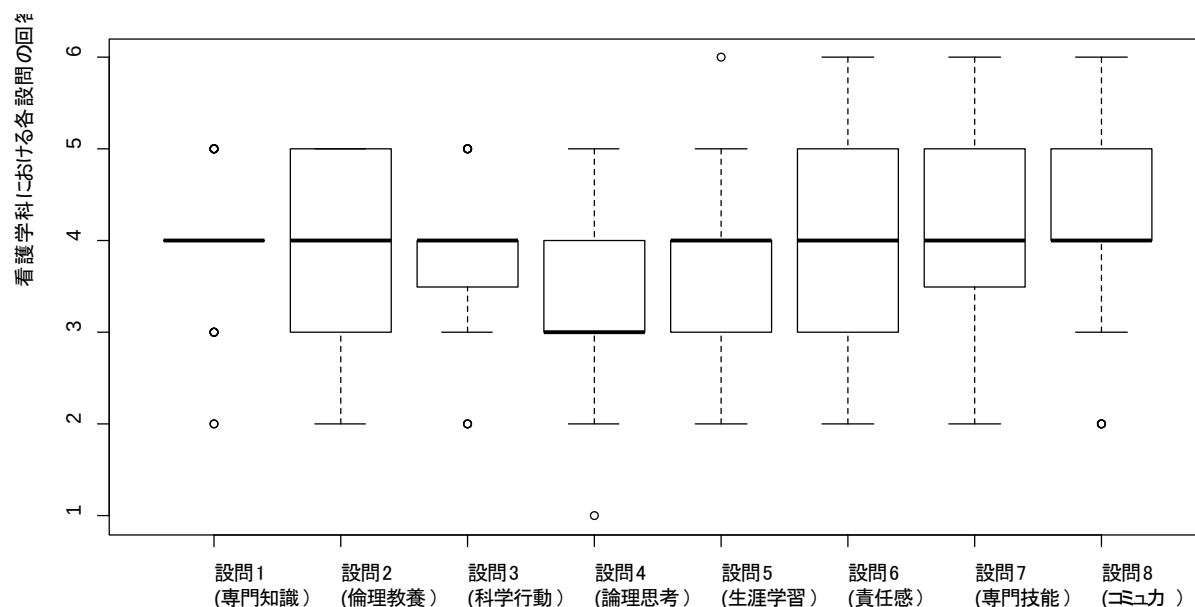


図3-6. 看護学科の回答分布

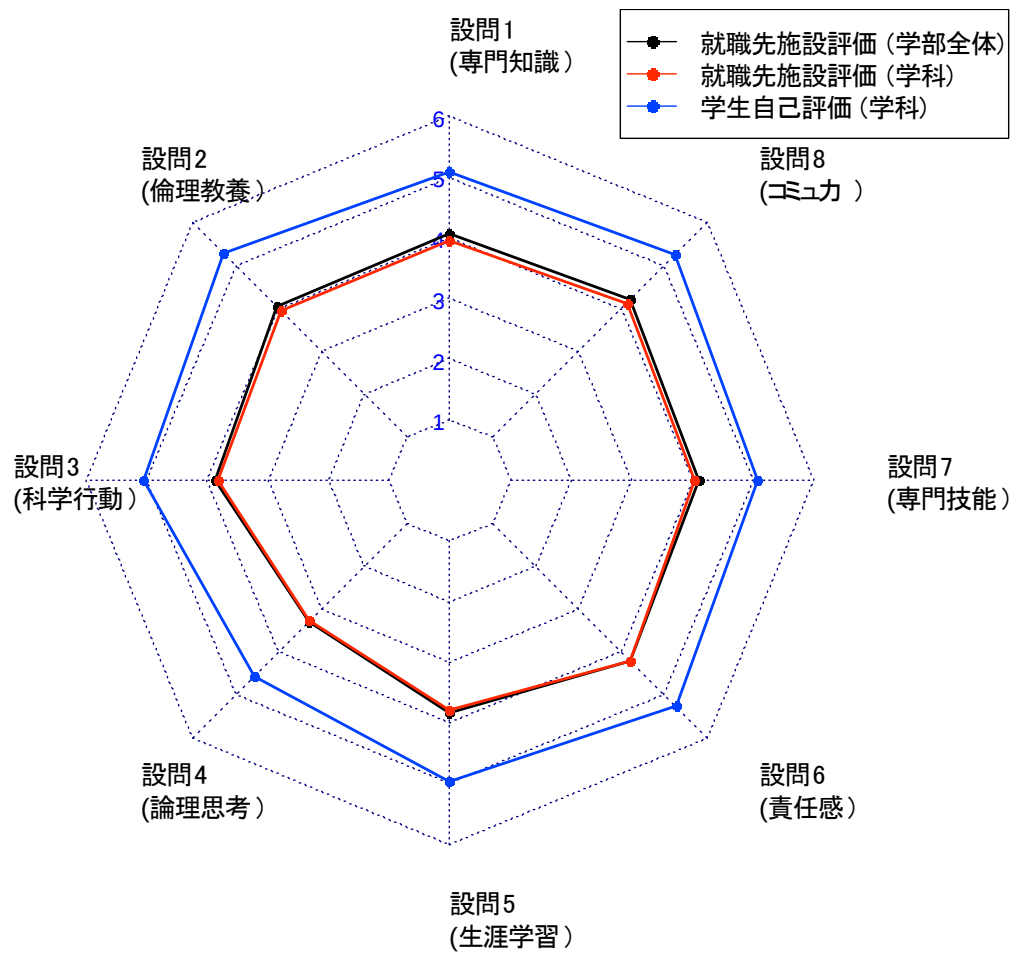


図 3－7． 回答結果の看護学科と学部全体との比較（平均値）

3-3-2) リハビリテーション学科・理学療法専攻

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-8に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値とリハビリテーション学科・理学療法専攻の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における理学療法専攻の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-9に示す。

設問1～設問8の全てにおいて、学科の評定値の平均は学部全体と同等の値となった。全ての設問において、就職先施設評価値より自己評価値が高い傾向を示した。

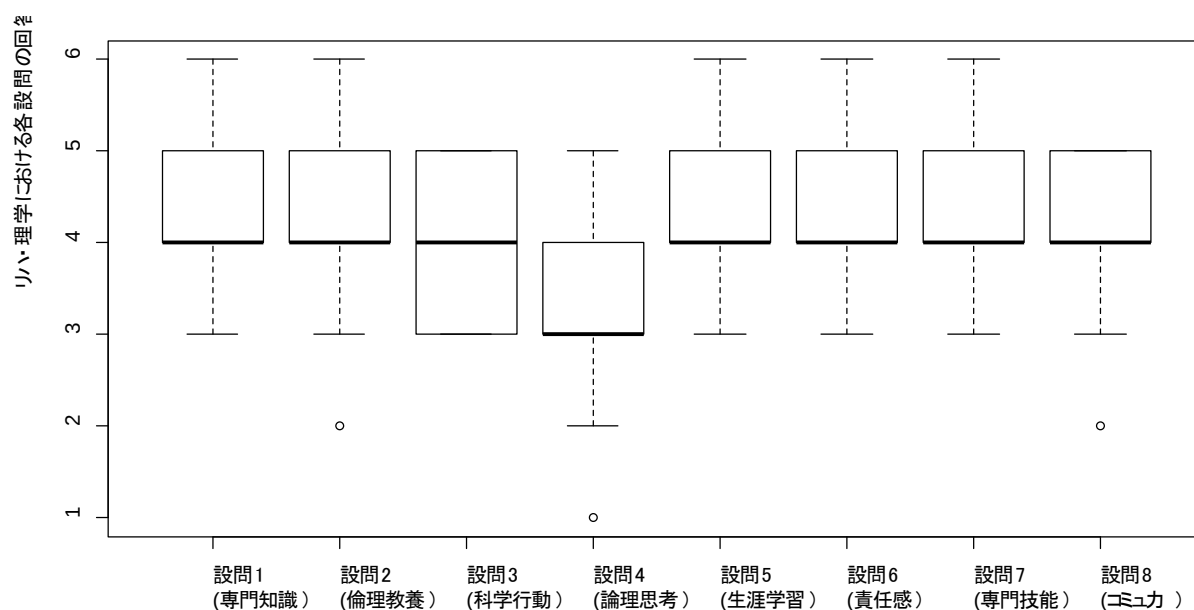


図3-8. リハビリテーション学科理学療法専攻の回答分布

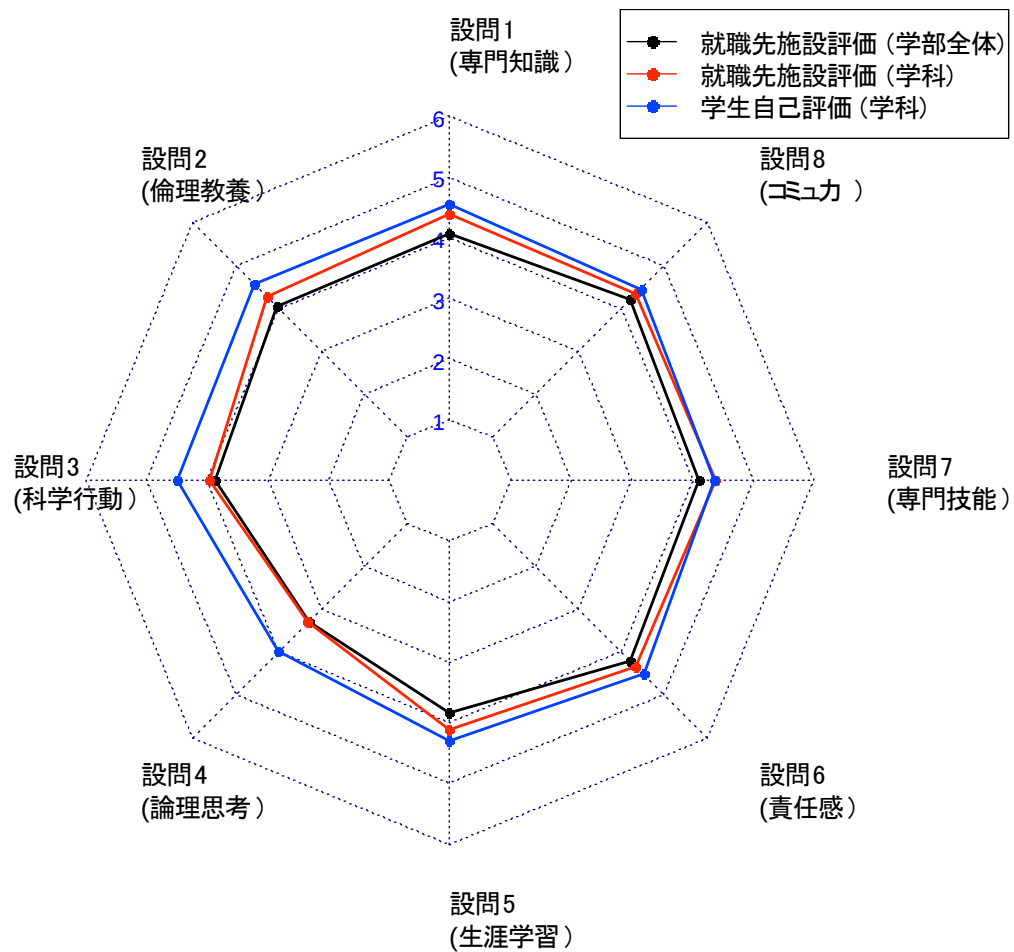


図3－9．回答結果のリハビリテーション学科理学療法専攻と学部全体との比較（平均値）

3-3-3) リハビリテーション学科・作業療法専攻

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-10に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値とリハビリテーション学科・作業療法専攻の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における作業療法専攻の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-11に示す。

設問1～設問8の全てにおいて、学科の評定値の平均は学部全体と同等の値となった。全ての設問において、就職先施設評価値より自己評価値が高い傾向を示した。

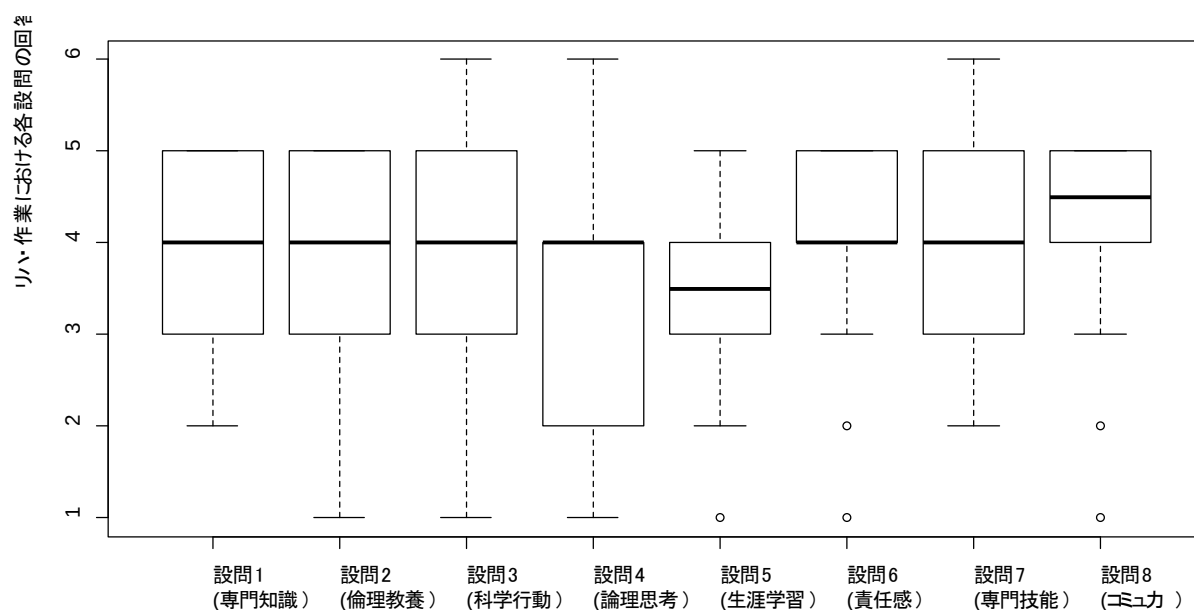


図3-10. リハビリテーション学科作業療法専攻の回答分布

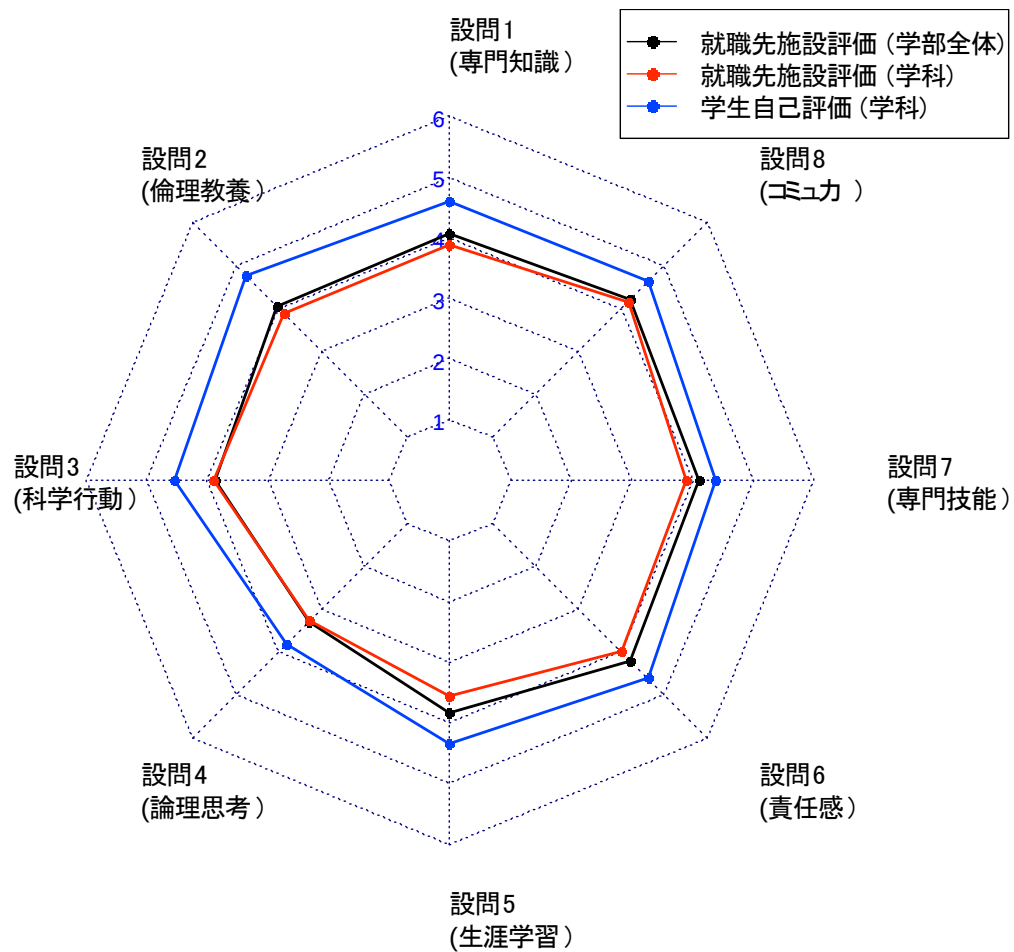


図3-11. 回答結果のリハビリテーション学科作業療法専攻と学部全体との比較 (平均値)

4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度

4-1) アンケート調査方法

保健衛生学部2019年度卒業生を対象として、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入する方式とし、学科ディプロマ・ポリシーの各項目を設問として、それに対する就業者(2019年度本学部卒業生)全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。なお、看護学科卒業生で本学第1教育病院へ就職したものに対する評価については、施設単位でなく病棟単位の管理者によるアンケート調査を実施した。

アンケート調査の実施方法(時期、対象等)は、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの到達度調査と同様である(表3-1)。また、達成度の6段階の評定尺度も同様である(表3-3)。2019年度保健衛生学部卒業生を対象とした、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表4-1に示す。

表4-1. アンケート調査票の回収状況(各学科ディプロマ・ポリシー)

学科	回収率	回収率 (昨年度)
看護学科	73.5% (39/54 部)	67.8%
リハビリテーション学科		
理学療法専攻	74.3% (26/35 施設)	76.7%
作業療法専攻	75.0% (18/24 施設)	89.7%
計	73.5% (83/113 施設・部)	75.4%

4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

4-2-1) 看護学科

アンケート調査項目(看護学科ディプロマ・ポリシー)を表4-2に示す。

2019年度看護学科卒業生を対象とした看護学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問8に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-1に示す。各設問に対する回答の割合を図4-2に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-3に示す。設問1～設問8について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-3に示す。

2019年度看護学科4年の看護学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者によ

る評価の平均値は4以下であり、3.42～4.29であった。中央値をみると設問1（知識技能）、設問2（看護基礎）、設問3（自立責任）、設問4（生涯学修）、設問5（コミュ力）、設問6（協調指導）、設問7（地域貢献）、設問8（国際探求）すべて「4：最低水準は修得できている」となった。学科ディプロマ・ポリシーは概ね達成できているという評価にはなるが、平均値は低い結果となった。アンケートの実施時期は、8～9月に集中して実施したため、調査時期は就職し3～4か月後のほぼ同一条件である。臨地での実践は各医療機関の研修体制もあり、新型コロナウイルスのため研修体制も通常とは異なった環境であったと思われる。対象者に対する設問6（協調指導）、設問7（地域貢献）、設問8（国際探求）は十分に実践できないと思われる。設問2（看護基礎）、設問3（自立責任）については、他の設問より評価は高く今後さらに評価の水準を高める必要がある。就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての項目で就職先施設評価値が低く、その差は0.86から1.58あり、設問6（協調指導）では差が一番大きかった。社会が求める水準について教育を通して学生に伝えていく必要があると考える。

表4-2. アンケート調査の設問項目（看護学科ディプロマ・ポリシー）

設問1 (知識技能)	看護職の基盤となる知識と技能が身についていますか。
設問2 (看護基礎)	看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できるようになっていますか。
設問3 (自律責任)	人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある言動をとることができるようになっていきますか。
設問4 (生涯学習)	専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学修を生涯継続していく姿勢を身につけていますか。
設問5 (コミュ力)	多様な価値観があることを受入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができるようになっていきますか。
設問6 (協調指導)	保健医療福祉のチームに関わる人たちと協調し、リーダーシップやフォローシップを発揮することができるようになっていきますか。
設問7 (地域貢献)	地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができるようになっていきますか。
設問8 (国際探求)	国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心をもち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができるようになっていきますか。

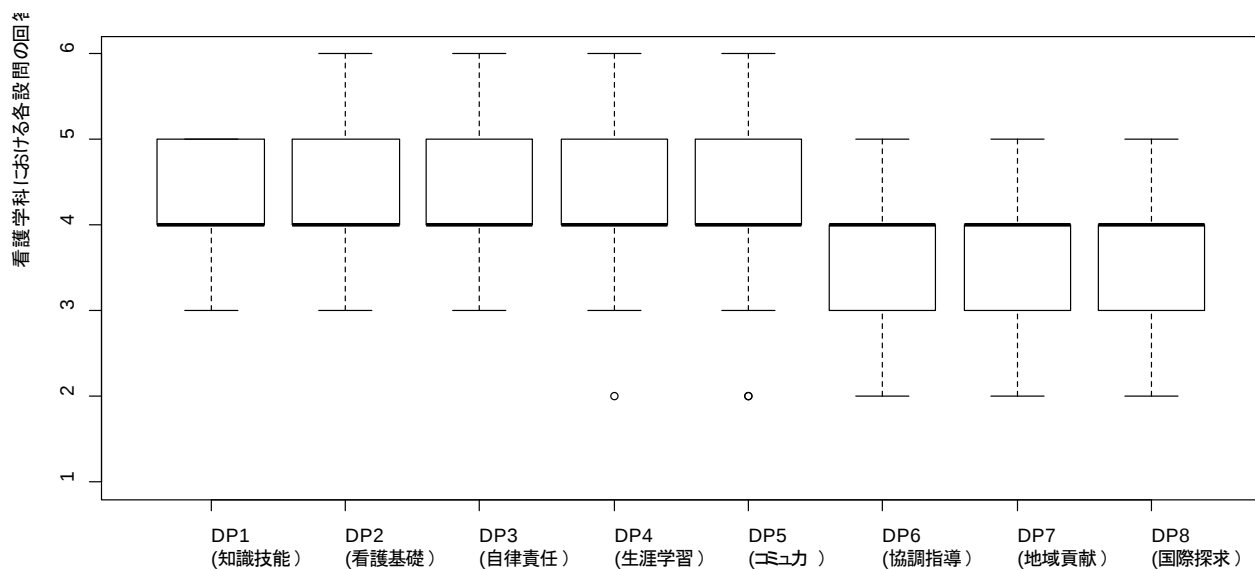


図 4－1. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

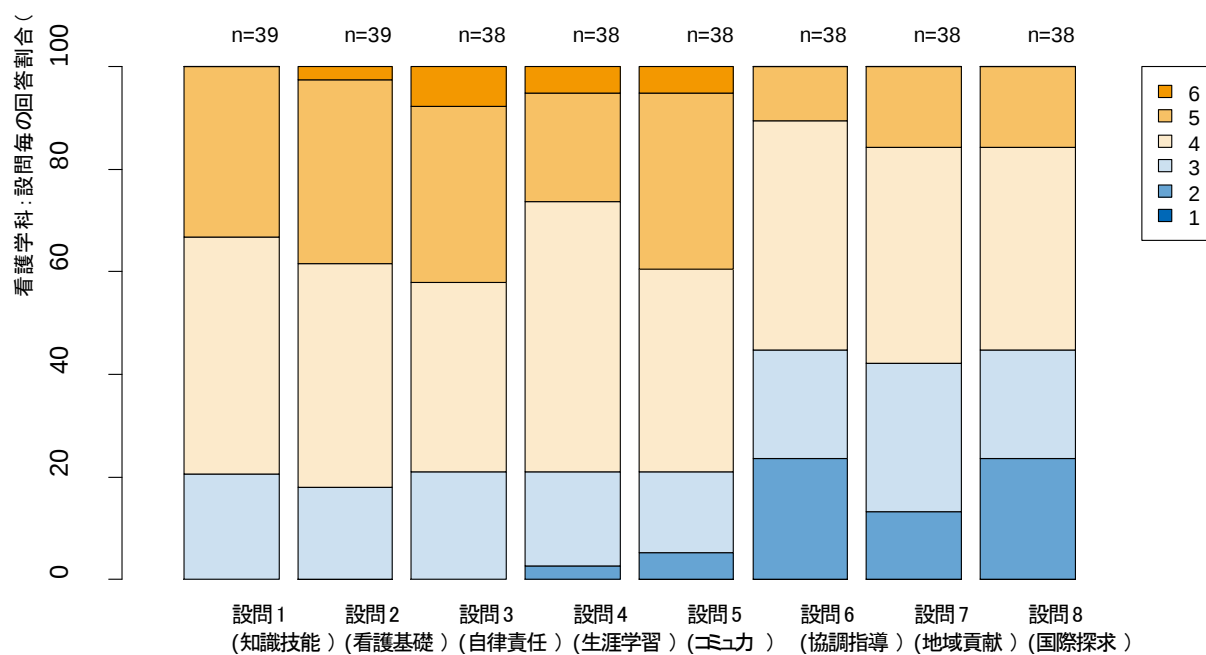
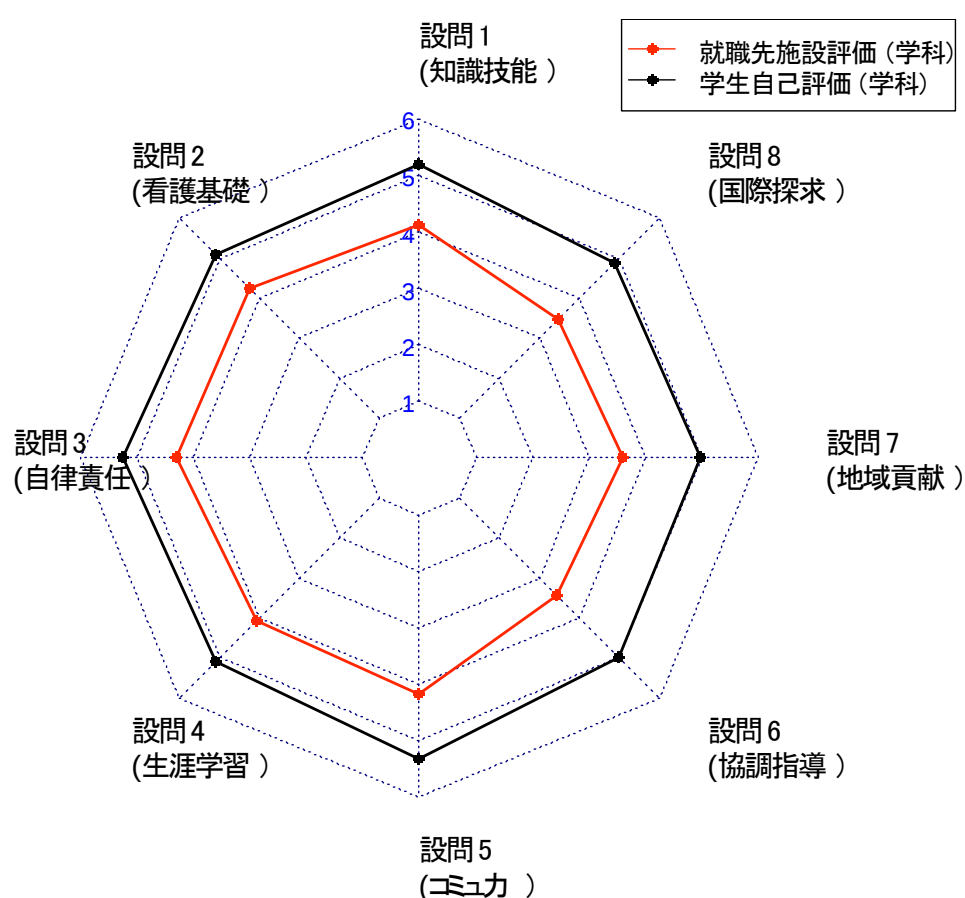


図 4－2. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 4－3．看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

看護	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8
平均値	4.13	4.23	4.29	4.08	4.18	3.42	3.61	3.47
標準偏差	0.72	0.77	0.89	0.84	0.94	0.96	0.90	1.02
中央値	4	4	4	4	4	4	4	4
最大値	5	6	6	6	6	5	5	5
最小値	3	3	3	2	2	2	2	2
n	39	39	38	38	38	38	38	38



看護	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8
就職先施設評価 a	4.13	4.23	4.29	4.08	4.18	3.42	3.61	3.47
学生自己評価 b	5.20	5.09	5.25	5.08	5.32	5.00	4.98	4.87
差 a-b	-1.07	-0.86	-0.96	-1.00	-1.14	-1.58	-1.37	-1.40

図 4－3．看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

4-2-2) リハビリテーション学科・理学療法専攻

アンケート調査項目(リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー)を表4-4に示す。

2019 年度リハビリテーション学科理学療法専攻4年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-4に示す。各設問に対する回答の割合を図4-5に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-5に示す。設問1～設問7について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-6に示す。

2019 年度リハビリテーション学科理学療法専攻4年のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、設問4(生涯学習)と設問5(地域貢献)を除いたその他の設問のいずれも、評定値の中央値は「4:最低水準は修得できている」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーは概ね達成できていると考えられる。設問6(専門技能)、設問7(チーム医療)については、他の設問より評価が高く、「4:最低水準は修得できている」以上の評価を受けた施設が多かった。これらは医療者および専門職業人としての基本的な臨床技能とチーム医療に貢献する資質を問う項目であり、本学の特徴である客観的臨床能力試験(OSCE)、豊富な臨床実習などを通して得られたものと考えられる。一方、設問4、設問5については、上記項目と比較して「6:ある程度修得しているが、最低水準には届かない」の割合が少なく、「2:十分に修得できていない」の割合が多い傾向を認めたことから、「4:最低水準は修得できている」以上の評価が得られるように教育基盤の整備および教育内容の改善を行う必要があると考える。就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての項目で就職先施設評価値が低く、その差は0.2から0.5程度であり、社会が求める水準について教育を通して学生に伝えていく必要があると考える。

表 4－4．アンケート調査の設問項目（リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー）

設問 1 (専門知識)	医療人として、専門分野の学修内容について知識を修得し、周辺科学領域の専門家と協調しリハビリテーションを学問として深化させることができる能力が身についていますか。
設問 2 (倫理態度)	患者心理を理解することができ、多様な価値観の存在を認識共感し、また、患者の尊厳を重んじ、倫理的配慮に基づいた責任説明を果たす個別対応ができる専門職業人としての幅広い教養および基本的態度が身についていますか。
設問 3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるように理学療法および作業療法の専門領域において、必要な行動を示すことができるようになっていきますか。
設問 4 (生涯学習)	最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させることができるようになっていきますか。
設問 5 (地域貢献)	患者および地域住民の健康に関連する生活上の諸課題を解決するため治療、予防、健康維持増進など健康障害からの回復に寄与するため、医療人として科学的根拠に基づき責任をもった行動をとることができるようになっていきますか。
設問 6 (専門技能)	専門的な技能を身につけ、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用することができるようになっていきますか。
設問 7 (チーム医療)	組織運営に必要な知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解でき、チーム医療としてメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていきますか。

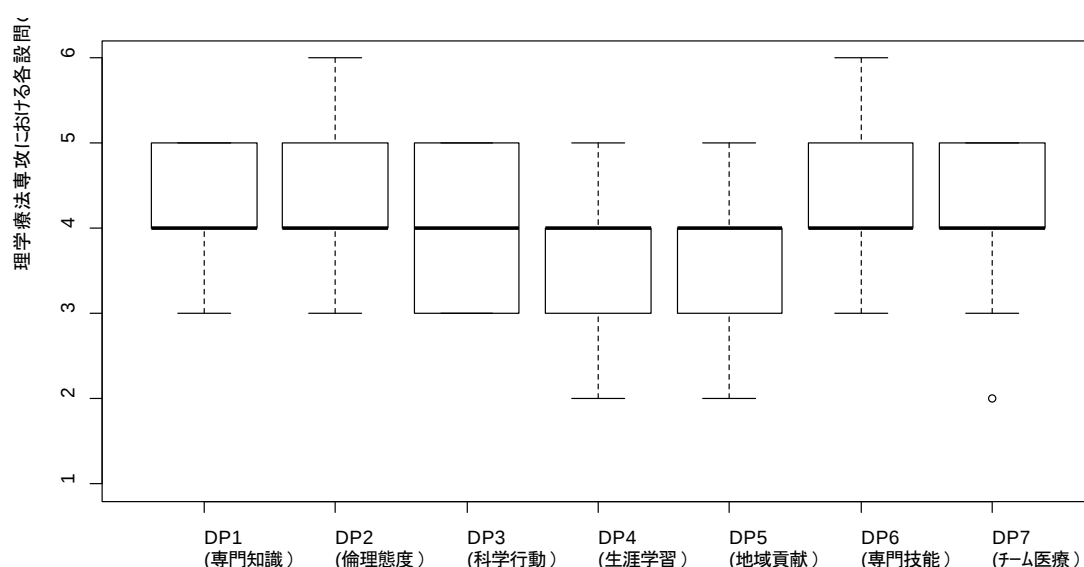


図 4－4．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
回答分布

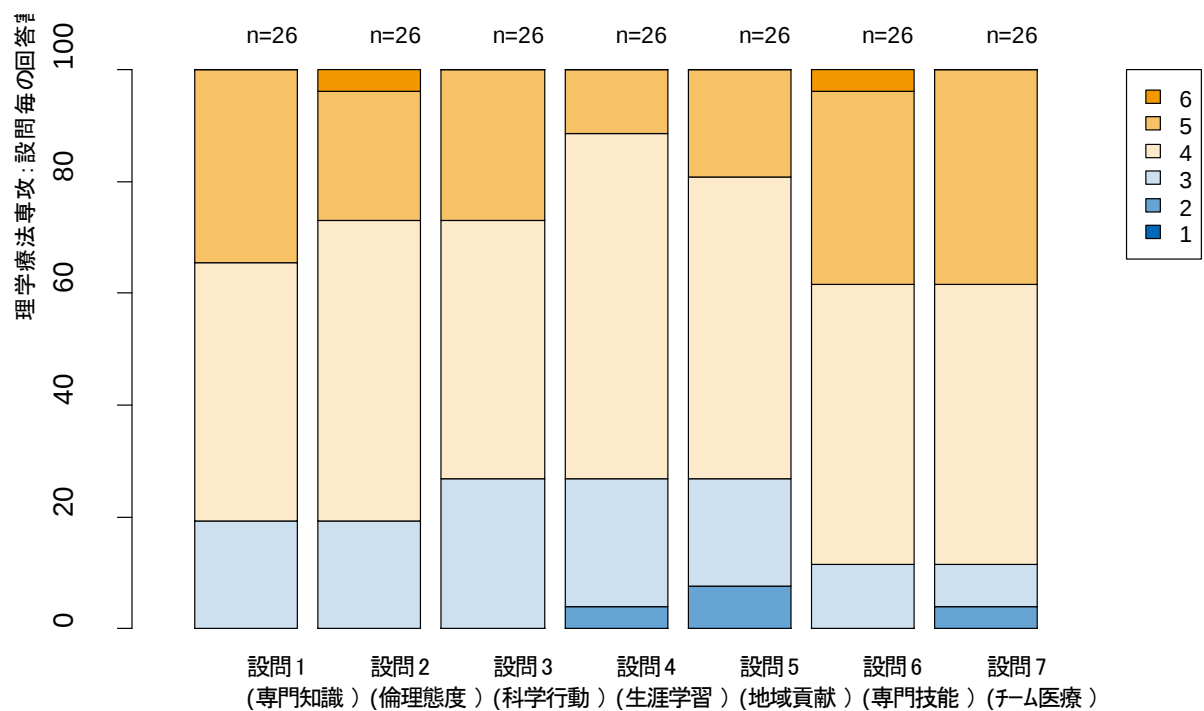
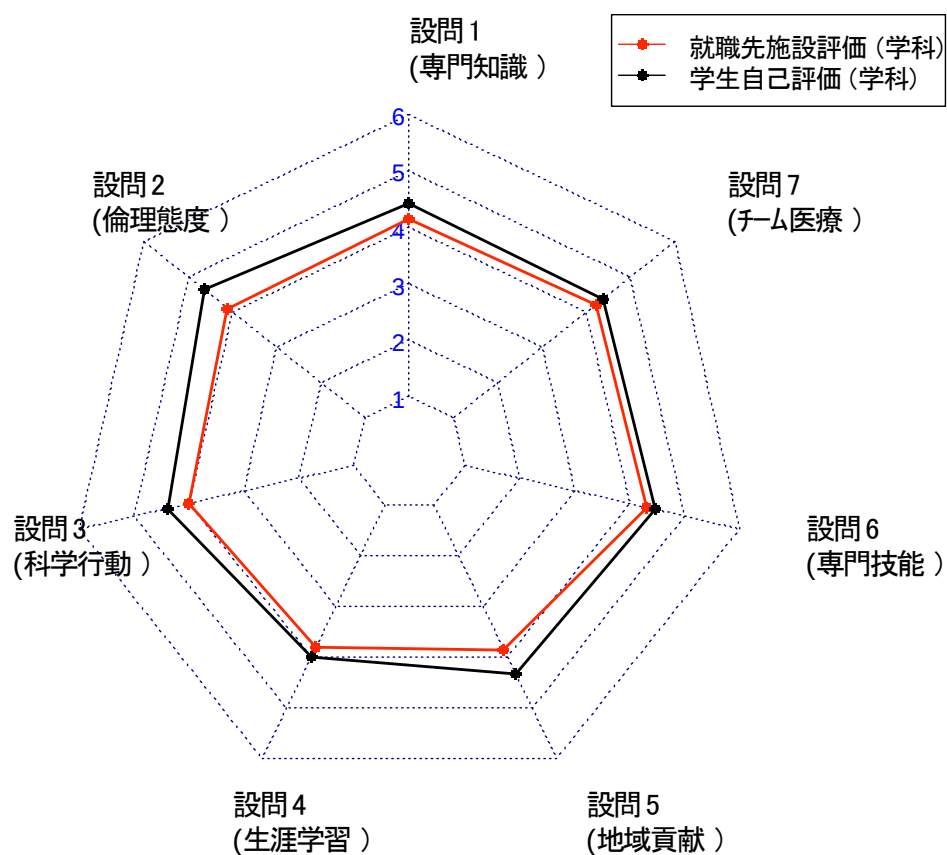


図４－５．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
設問毎の回答割合

表４－５．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
基本統計量

リ理	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
平均値	4.15	4.12	4.00	3.81	3.85	4.31	4.23
標準偏差	0.72	0.75	0.73	0.68	0.82	0.72	0.75
中央値	4	4	4	4	4	4	4
最大値	5	6	5	5	5	6	5
最小値	3	3	3	2	2	3	2
n	26	26	26	26	26	26	26



リハ・理学	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
就職先施設評価 a	4.15	4.12	4.00	3.81	3.85	4.31	4.23
学生自己評価 b	4.43	4.65	4.38	4.00	4.33	4.47	4.38
差 a-b	-0.28	-0.53	-0.38	-0.19	-0.49	-0.16	-0.15

図4-6. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
評定値の平均値

4-2-3) リハビリテーション学科・作業療法専攻

アンケート調査項目(リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー)を表4-4に示す。

2019 年度リハビリテーション学科作業療法専攻4年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-7に示す。各設問に対する回答の割合を図4-8に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-6に示す。設問1～設問7について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-9に示す。

2019 年度リハビリテーション学科作業療法専攻4年のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、設問2(倫理態度)評定値の中央値のみが「4:最低水準は修得できている」を示しており、その他の項目の中央値は「4:最低水準は修得できている」レベルと「3:ある程度修得しているが、最低水準には届かない」レベルの間であり、学科ディプロマ・ポリシーの達成には届いていないと考えられた。設問1(専門知識)、設問2(倫理態度)、設問6(専門技能)、設問7(チーム医療)については、「4:最低水準は修得できている」以上の評価を受けた施設が多かった。これらは医療者および専門職業人としての基本的態度や知識を問う項目であり、本学の特徴である客観的臨床能力試験(OSCE)、豊富な臨床実習などを通して得られたものと考えられる。一方、設問4(生涯学習)、設問5(地域貢献)については、上記項目と比較して「3:ある程度修得しているが、最低水準には届かない」の割合が多く、「4:最低水準は修得できている」以上の評価が得られるように教育基盤の整備および教育内容の改善を行う必要があると考える。すべての項目で自己評価は就職先施設評価値よりも高く、その差は0.5から1.0程度であり、社会が求める水準について教育を通して学生に伝えていく必要があると考える。

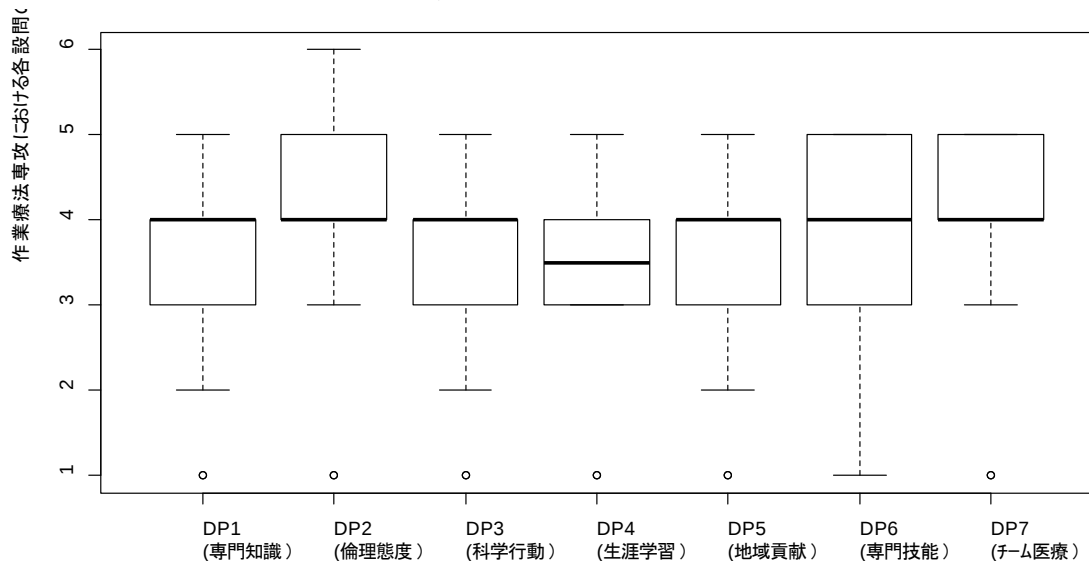


図4-7. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
回答分布

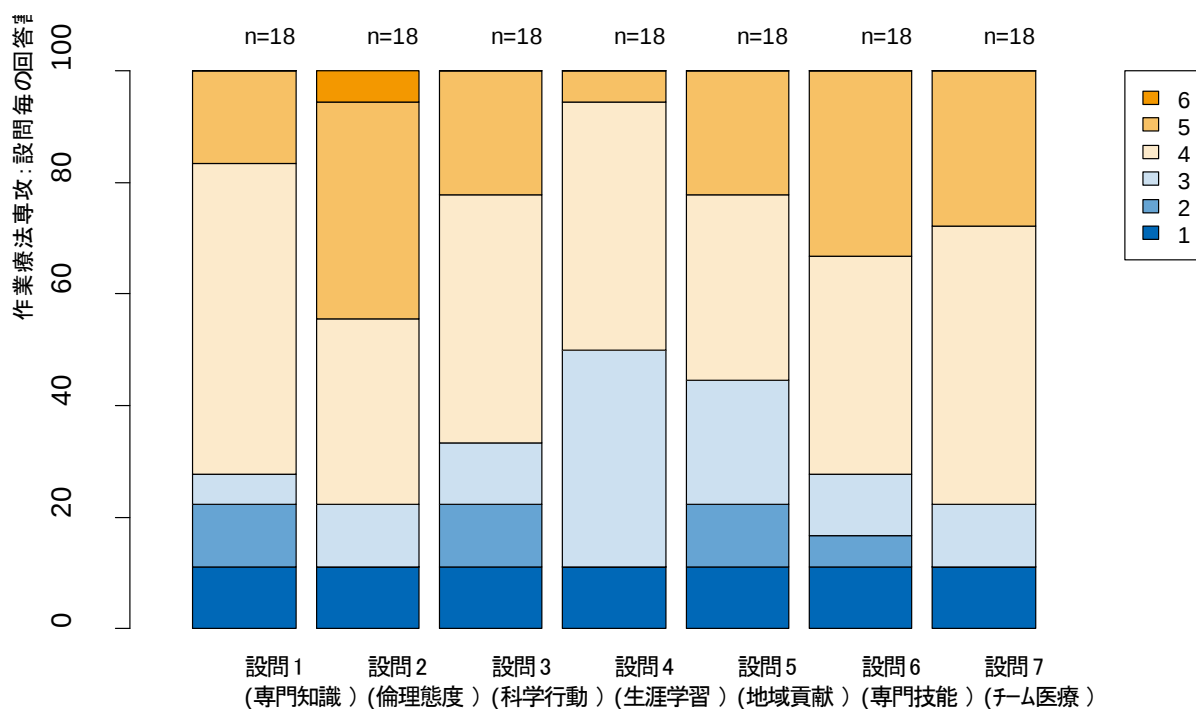
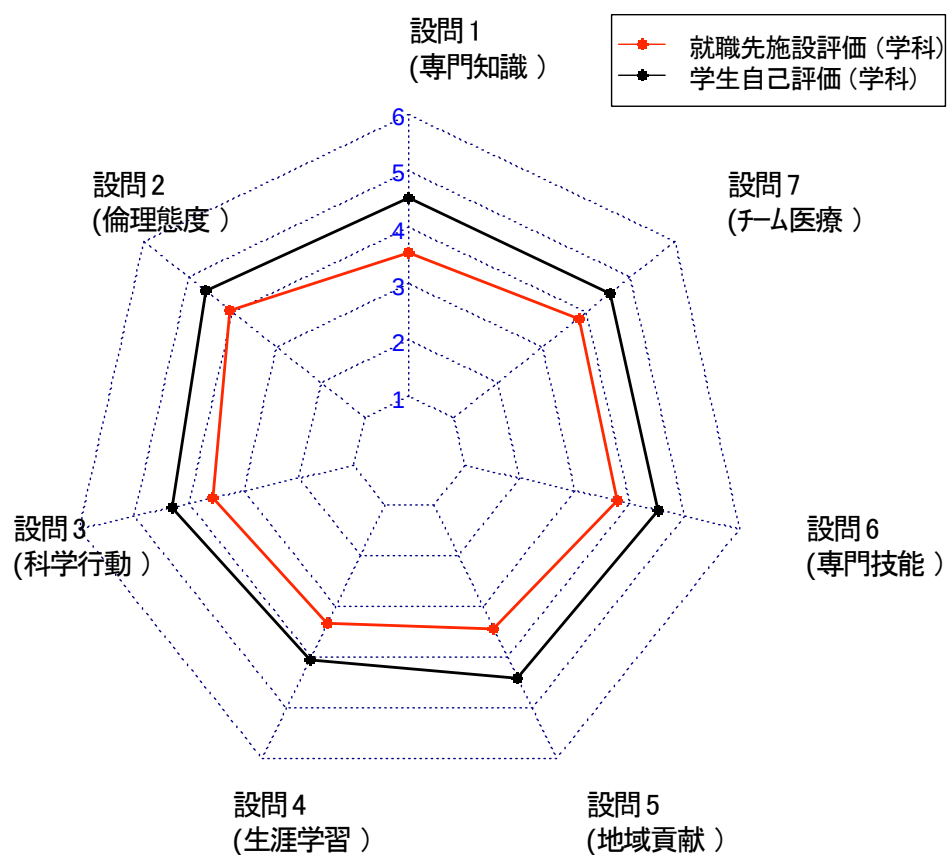


図4-8. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
設問毎の回答割合

表4-6. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
基本統計量

リ作業	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
平均値	3.56	4.06	3.56	3.33	3.44	3.78	3.83
標準偏差	1.21	1.31	1.26	1.00	1.26	1.27	1.17
中央値	4	4	4	4	4	4	4
最大値	5	6	5	5	5	5	5
最小値	1	1	1	1	1	1	1
n	18	18	18	18	18	18	18



リハ・作業	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
就職先施設評価 a	3.56	4.06	3.56	3.33	3.44	3.78	3.83
学生自己評価 b	4.53	4.61	4.32	4.05	4.42	4.50	4.55
差 a-b	-0.97	-0.55	-0.76	-0.72	-0.98	-0.72	-0.72

図4-9. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
 評定値の平均値

5. 参考資料

2019 年度保健衛生学部卒業生の就職先施設に対し、看護学科は図 5－1、リハビリテーション学科は図 5－2 の依頼文を送付し、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーおよび各学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度をアンケート調査した。

2020 年 8 月吉日	
〇〇〇〇〇〇病院 看護部長 様	藤田医科大学 保健衛生学部 学 部 長 金田 嘉清 IR 推進センター長 橋本 修二
保健衛生学部卒業生に関する到達度アンケート ディプロマポリシーに関する調査のお願い（依頼書）	
平素は本学の教育に関しまして格別なるご理解とご指導を賜り、深くお礼申し上げます。さて、今年度貴院でご採用頂きました本学の保健衛生学部卒業生（看護学科、リハビリテーション学科理学療法専攻・作業療法専攻）を対象とした、調査を実施したくご協力をお願い致します。在学中の保健衛生学部及び学科別教育理念（ディプロマ・ポリシー）について、これらの素養がどの程度身についているか、就職先である各施設側より評価をしていただくものです。既に、採用いただいた卒業生は、卒業時に 4 年間を振り返り自己評価を終えており、卒業後数カ月～数年経過したこの時点で、貴施設により本学卒業生のディプロマ・ポリシー到達度を第三者評価をお願いしたく存じます。評価につきましては配属先の上長にご回答いただきますようお願い申し上げます。この調査は、文部科学省が進める私立大学改革総合支援事業に沿ったものであり、業務多忙な中お手数をおかけ致しますが、ご協力賜りますようお願い致します。	
－ 記 －	
調査内容：本学卒業生の就職先施設によるディプロマ・ポリシー調査 調査期間：本書到着日 ～ 2020 年 9 月 30 日（水） 調査対象：2020 年 4 月採用～入社 3 年目相当の本学卒業生 同一学科（同一職種）で、複数の学生をご採用頂いている場合は、全体的な評価をお願い致します。 調査方法：調査対象について、配属先の上長による貯砂表への回答	
以 上	
同封書類：	
1. 保健衛生学部 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1 通 2. 学科別 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1 通 3. 返信用封筒：1 通	
お問い合わせ窓口： 藤田医科大学 事務局総務部 学生支援課 キャリア支援担当 (TEL 0562-93-9864, FAX 0562-93-7211)	

図 5－1. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文（看護学科）

2020 年 8 月吉日

〇〇〇〇〇〇病院

採用ご担当者様

藤田医科大学 保健衛生学部

学 部 長 金田 嘉清

IR 推進センター長 橋本 修二

保健衛生学部卒業生に関する到達度アンケート
ディプロマポリシーに関する調査のお願い（依頼書）

平素は本学の教育に関しまして格別なるご理解とご指導を賜り、深くお礼申し上げます。さて、本年度までに貴院でご採用頂きました本学の保健衛生部卒業生（看護学科、リハビリテーション学科）を対象とした調査を実施したく、ご協力をお願い致します。本調査は、在学中の保健衛生学部及び学科別の教育理念（ディプロマ・ポリシー）について、これらの素養が貴院に採用いただいた卒業生にどの程度身についているか、就職先である各施設側より評価をしていただくものです。既に、卒業生は卒業時に 4 年間を振り返り、ディプロマ・ポリシーの自己評価を終えております。卒業後数箇月～数年経過したこの時点で、貴施設より本学卒業生のディプロマ・ポリシー到達度を第三者評価して頂きたく、お願い申し上げます。評価につきましては、配属先の上長にご回答いただきますようお願い申し上げます。この調査は、文部科学省が進める私立大学等改革総合支援事業に沿って実施するものです。業務多忙の中お手数をおかけ致しますが、ご協力賜りますようお願い致します。

－ 記 －

調査内容：本学卒業学生の就職先施設によるディプロマ・ポリシー到達度評価調査

回答期間：本書到着日 ～ 2020 年 9 月 30 日（水）

調査対象：2020 年 4 月採用～入社 3 年目相当の本学卒業生

同一学科（同一職種）で、複数の学生をご採用頂いている場合は、全体的な評価をお願い致します。

調査方法：調査対象について、配属先の上長による調査票への回答

以 上

同封書類：

1. 保健衛生学部 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1 通
2. 学科別 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1 通
3. 返信用封筒：1 通

お問い合わせ窓口：

藤田医科大学 事務局 総務部 学生支援課 キャリア支援担当
(TEL 0562-93-9864, FAX 0562-93-7211)

図 5－2. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文
（リハビリテーション学科）